

JIM-NET 年次報告書

日本イラク医療支援ネットワーク

Annual Report **2017**

差別や偏見と闘うがん患者や生存者を応援します。



Ema



سعيد

HAPPY



IS から解放された直後のモスル旧市街

©Yusuke Suzuki

＊ごあいさつ

特定非営利活動法人
日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)
代表理事 鎌田 實

2017 年度は不調の年でありました。チョコ募金が、かつてないほど不調でした。当面はそういう状況の中で経済的にも厳しいかと思いましたが、皆さまのご協力のお陰で、何とか決算を無事に終わることができました。

病院に対する薬の支援を中心に、相変わらずイラクの支援をしております。ヨルダンで行ったシリア難民支援は、最後の出口的な解決を図った支援がわずかですが残っています。それと同時に福島への支援も、JIM-NET 流の支援が届きだしているという感触を持っております。

その中で、JIM-NET がこの 2、3 年課題にしていた小児がん包括支援施設 (JIM-NET ハウス) が、国の補助金もいただいて、これからいよいよ本格化します。「イラクの子どもたちの命を守る」という原点に立ち戻って、JIM-NET はこれから 2018 年と 2019 年に向けて、壁を壊すように、チョコ募金もこのまま去年と同じように低空飛行にならないように、再び、上昇気流に乗せるように頑張っていきたいとスタッフ一同、考えております。



＊組織体制

【役員】

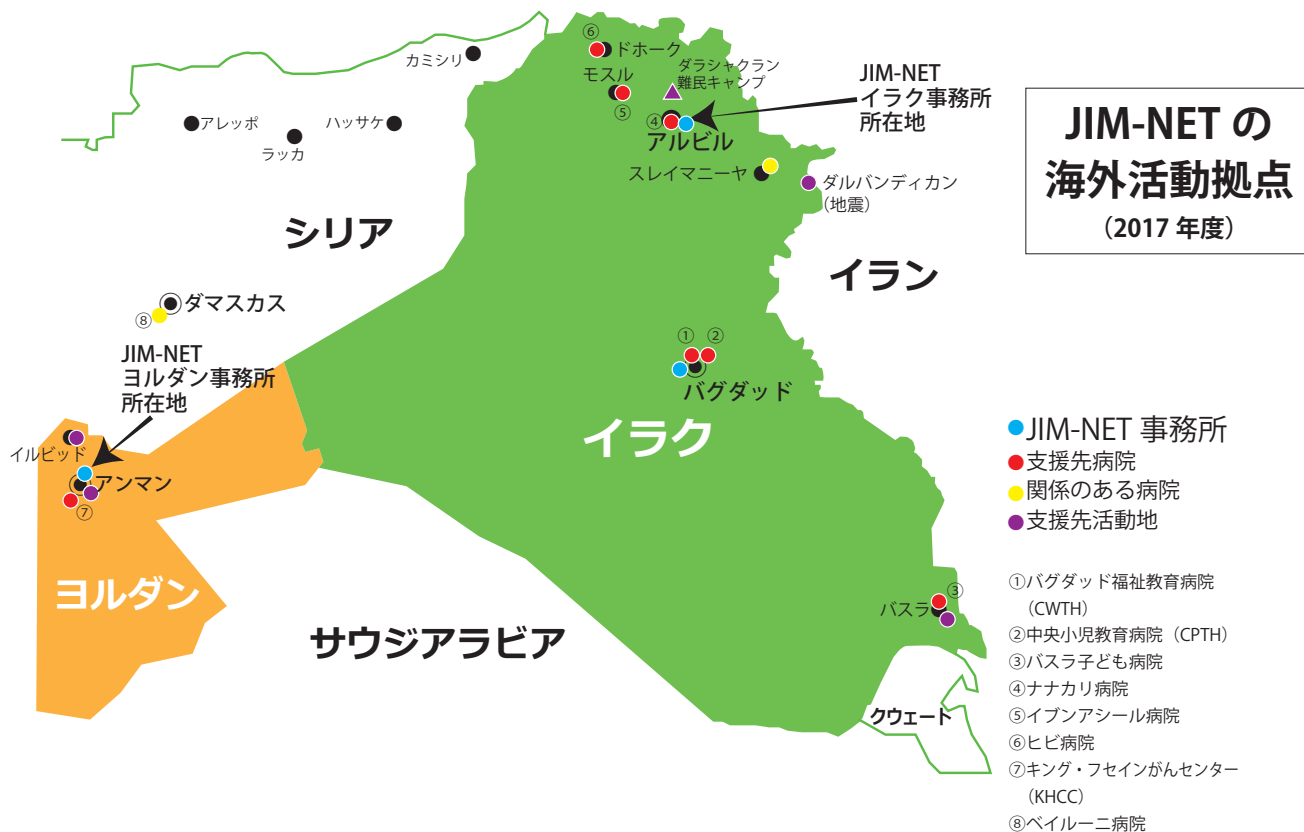
代表	鎌田 實
副代表兼事務局長	佐藤真紀
理事	池住義憲
理事	井下俊
理事	鎌仲ひとみ
理事	谷山博史
理事	平野裕二
監事	村山文彦

【スタッフ】

東京事務所スタッフ：7 名
アルビル事務所スタッフ：1 名
現地スタッフ：アルビル 8 名 バグダッド 2 名 バスラ 1 名 ヨルダン 1 名

【サポーター】

ラナサポーター*：529 名 一般サポーター**：1577 名
* ラナサポーター：年会費 1 万円。うち 3 千円が会報誌の送付やイベント参加費免除等のサービスと、JIM-NET の運営に充てられるほか、7 千円を子どもたちの医療支援費に充当します。
** 一般サポーター：年会費 3 千円。会報誌の送付やイベント参加費免除等のサービスと、JIM-NET の運営に充当されます。



✻ JIM-NET のあゆみ

1990年代半ば、イラクの子どもたちの間で、がん・白血病の発症率が急激に増加し始めました。1991年の湾岸戦争時に米軍が使用した劣化ウラン弾の放射能の影響だと思われます。しかし、湾岸戦争後の経済制裁による抗がん剤や医療機器の輸入制限のため、適切な治療が受けられずに、多くの子どもたちが、助かるはずの命を失ってしまいました。

2003年のイラク戦争で、米軍は再び劣化ウラン弾を使用しました。イラクの病院は破壊され、疲弊し、保健行政も機能不全に陥り、増え続ける小児がん・白血病の子どもたちにとって危機的状況でした。2004年6月、来日したバスラ産科小児科病院のジャンン医師と日本の支援者たちの間で、子どもたちの窮状を救うための話し合いがもたれました。そして、より効率的で継続的な支援体制の確立をめざし、NGO、市民グループ、日本とイラクの医師たちが「日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)」を立ち上げました。以降、任意団体として7年あまり活動した後、2012年2月1日、特定非営利活動法人 (NPO 法人) となりました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災の直後には、宮城県石巻市を中心に医療支援や仮設風呂の提供を行なうとともに、地震と津波で福島第一原子力発電所の事故が起きた福島県にて、放射能の被害を最小限に留めるべく除染や疎開の支援を継続して行っています。また、2012年4月からは、内戦が激化したシリアから大量の難民が発生したことを受け、イラクとヨルダンにて緊急支援を開始しました。

2016年度にはイラク・アルビルに「小児がん包括支援施設 (通称: JIM-NET ハウス)」を開設しました。ヨルダンにおけるシリア難民の戦争負傷者・障害者支援を継続し、イラク国内避難民を対象に緊急支援を行いました。

JIM-NET は、イラクの小児がんの子どもたちが自国でちゃんと治療を受けられるようになり、先進国並みの生存率となるように支援を続けます。福島での活動も継続し、国内外を問わず放射能汚染から人々を保護するために必要な諸活動を行います。また、シリア難民支援とイラク国内避難民支援にも継続して取り組んでいきます。

JIM-NET の活動「3つの柱」

イラク小児
がん支援

緊急支援
(イラク・
ヨルダン)

福島支援



イラク小児がん支援

国民投票❖2017年度を振り返って

2014年にIS「イスラム国」がモスルを陥落してから、3年が経過しました。

2017年7月9日、ついにイラク政府は、モスルの解放を宣言。ISの暗黒統治は終わりを告げました。しかし、激しく破壊された市街は、そうすぐには普及しません。JIM-NETは、スタッフが足しげくモスルに通い、特に小児がんの専門病院であるイブンアシール病院の支援に奔走しました。

日本政府の資金援助でスタートした小児がん包括支援施設（JIM-NETハウス）も軌道に乗り始めた矢先、9月25日、クルド自治政府は、イラク中央政府をはじめ国際社会の反対を押し切って、クルドの独立を決める国民投票を実施しました。中央政府は激しく抗議し、自治権をはく奪すべく反撃に出ました。ISから解放された領土をめぐり、クルド自治政府の軍隊とイラク中央政府の軍隊が衝突し、緊張感が高まりました。

アルビル国際空港は閉鎖され、日本人スタッフがアルビルから退去することになり、日本からの遠隔操作で支援を実施せざるを得ない状況になりました。

中央政府とも粘り強く交渉を続け、JIM-NETは、クルド自治政府とイラク中央政府の双方で小児がんの支援をしていくことを改めて確認し、支援を継続することができました。



クルドの独立を支持する人たち

❖活動内容

▶医薬品支援・消耗品支援

4地域の小児がん専門病院に抗癌剤などの医薬品を支援しました。

バグダッド	50,000米ドル
バスラ	131,191米ドル
アルビル	36,449米ドル
モスル	22,368米ドル

医薬品に関しては、子どもの平和と生存のための
童話館、生活協同組合パルシステム東京、連
合「愛のカンパ」様よりご支援いただきました。



バグダッドの小児がん病棟

▶JIM-NETハウス

がんの子どもと家族のための包括支援施設がJIM-NETハウスです。

遠方からの患者、家族の宿泊施設や、様々な相談所として機能しています。

本事業は2017年1月より、外務省日本NGO連携無償資金協力より助成を受け、2期目は病院の敷地内に建物を建設することになりました。

宿泊施設：年間で495名利用

JIM-NETハウス・事務所：年間で189名利用

▶研修事業

看護師とソーシャルワーカーの感染症対策や患者への接し方などの研修を実施しました。

参加者：143名



新しく建設するJIM-NETハウスの完成図

▶がんの子どもを支える社会づくり

学校や難民キャンプで、小児がんの説明をし、「もし近くにがんの子どもがいたらどうしたらいい？」と題したワークショップを実施しました。

また、地元のサッカークラブも好意的に協力してくれ、がんの子どもたちを励ますイベントを開催することができました。

国際がんデーである2月4日には、イベントを実施しました。地元の団体や、ボランティアが協力し寄付も9000ドル集まり、地域でがんの子どもたちを支えようとする文化が根付いてきました。

小児がんサバイバーに聞き取りを行い、「がん患者から学ぶ10の教訓」というアラビア語の冊子を作製しました。



モスルの病院に医薬品を届ける

▶貧困患者支援

総額 37,800 米ドル

延べ患者人数：702 名に主に薬代を支援

▶最先端技術の導入

CAR-T 細胞移植に関して信州大学のリカー・アルクザイル医師をスレイマニアに派遣し、骨髄移植を唯一行っている HIWA 病院を視察し、可能性を調査しました。

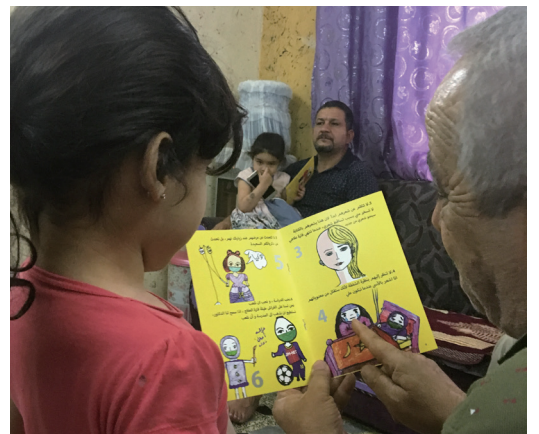
劣化ウラン弾と小児がん発がんの因果関係に関してサンプルを収集し、日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）を介して信州大学へ提供しました。



小児がんサバイバーが体験を語るセミナー

▶JIM-NET 会議の開催

3月16,17日、アルビルでJIM-NET会議を開催、日本からは、理事である井下俊医師と信州大学のリカー・アルクザイル医師が参加しました。イラクからは、20名の医師の参加がありました。毎回評価しているALL（急性リンパ性白血病）の生存率に関しては、治療放棄は減少し、長期生存率も若干の改善がみられました。



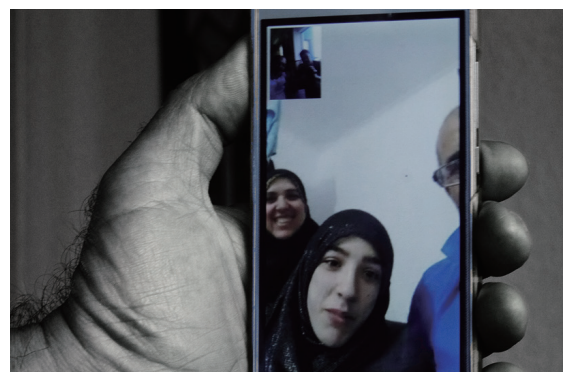
「がん患者から学ぶ10の教訓」

★イギリスに渡ったタハニ

2012年の6月、シリア・ダラアの自宅周辺には戦車も出ていて、総勢25名ほどの兵士が襲ってきた。父親を捕まえて、連行しようとしたので、当時13歳のタハニは果敢にも「お父さんを連れて行かないで！」と抱きついたのだ。兵士は銃底で彼女の両手を振りほどいた。タハニの両腕は折れてしまい、お腹も一発殴られた。父親は刑務所に入れられた。4か所の刑務所を転々として、4か月を費やしたが、裁判所は、無罪を言い渡し、無事に釈放された。ところが、家に戻ってくると、娘の骨折した腕は骨がくっつかず、殴られたお腹の痛みを訴え続けた。腫瘍ができていたので、ヨルダンに逃げて手術をした。ニコニコとカメラに向かって微笑んでいた彼女も、お腹の痛みに耐えられなくなったのか次第に顔をしかめ、泣き出してしまった。

タハニは、検査の結果、助かる見込みはないと言われた。JIM-NETは痛み止めを買って届け続けた。

2016年9月、イギリスがタハニを難民として受け入れた。2017年8月、タハニとスカイプでつながった。元気そうに話しかけてくれた。英語の先生やソーシャルワーカーが毎日訪問してくれるという。3か月後に彼女は亡くなるが、イギリスの人道的な扱いには敬服だ。





緊急支援

❖シリア紛争の現状

2011年、「アラブの春」の影響を受けて発生した反体制運動に対する政府軍の鎮圧から始まったいわゆる「シリア紛争」は、7年目に入りました。これまでに国連が仲介したシリア和平会議は功を奏さず、米国は2017年4月には、アサド政権が化学兵器を使用したとし、トマホークミサイルを撃ち込むなど緊張が高まりました。

一方で、ロシア・イラン・トルコが共催するアスタナ会議（カザフスタン）では、2017年5月、シリア内に4つの緊張緩和地帯（セーフ・デエスカレーション・ゾーン）を設置することが決まり、2017年7月7日の米露首脳会談では、米露両国がシリア南部のクネイトラ、ダラー、スワイダの3県での停戦に合意しました。

アメリカに後押しされたクルド民族を中心とするシリア民主軍（SDF）が、10月にラッカをISから解放するなど平和に向けた前進がみられる一方、2018年1月にはトルコがアフリーンのクルド人勢力に対し激しい攻撃を加え、同じ時期にシリア政府軍とロシア軍が東グータの反体制派に大規模な空爆などを行うなど、一時「対IS」でまとまっていた力関係が崩れ、緊張がつづいています。

UNHCRによるとシリア難民数は、630万人（2017年12月末）に達しました。

JIM-NETでは、イラクのクルド系シリア難民へ妊産婦や乳幼児の医療支援とヨルダンのアラブ系シリア難民に負傷者・障害者支援のプログラムを行い、シリア情勢を見守ってきました。また、シリア国内へ今後どう関われるか検討するための調査も開始しました。

❖活動内容

▶シリア難民支援（イラク）

2012年から行っているシリア難民妊産婦支援を主にダラシャクラン難民キャンプで実施。以下の支援を継続しました

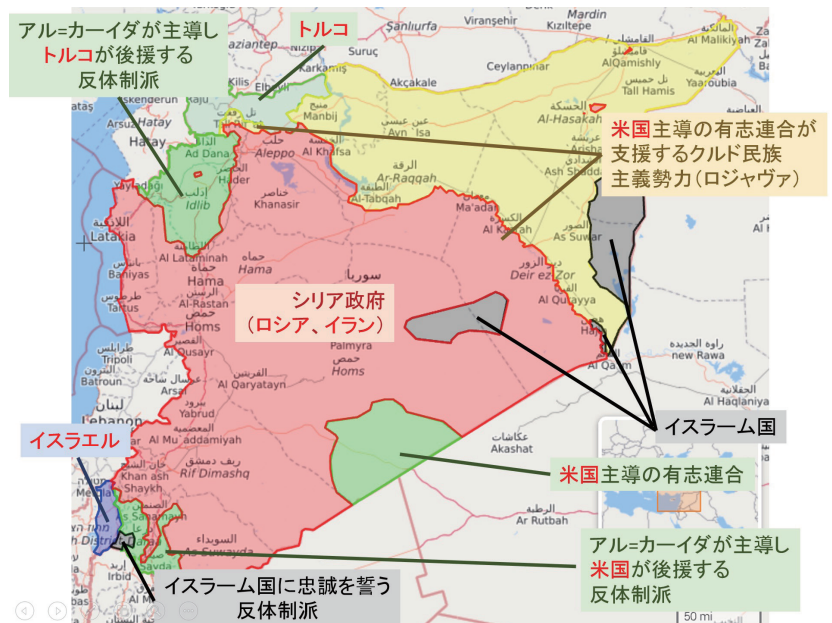
①妊産婦および乳幼児支援

- ・クリニックへ妊婦が必要とする葉酸など医薬品の支援しました。
- ・特殊な粉ミルクの必要な乳児を支援：年間で21人の乳幼児（新生児は12名）を支援しました。
- ・手術等が必要な子どもの医療費補助：4人の幼児と4名の妊婦を通院させました。
- ・妊産婦の集える場所づくり：週2回のワークショップを開催し、毎回10名程度の参加があり、のべ86名が参加しました。

②収入創出

- ・長期化する難民たちは仕事を必要としています。

YDYの協力を得て、アクセサリーやがん支援のキャンペーン用グッズを作成したり、「サカベコ」の商品開発、貧困家庭に屋台を貸し出すなど試行錯誤を続けています。



シリア内戦の構図 青山弘之氏作成



ダラシャクラン難民キャンプに
妊婦用の医薬品を支援



シリア難民のお母さん
たちが作ったアクセサ
リー（協力：YDY）

▶シリア難民支援（ヨルダン）

「シリア紛争の直接の被害者」であり、もっとも弱い立場にある難民の負傷者および障害者を対象に、2013 年以降、義肢の支援、医療機関への移送サービスやリハビリテーションの提供、障害者の社会参加活動支援などを実施してきました。2017 年度からは、昨年度まで JIM-NET が主体として行っていた以下の活動の運営を、それぞれのパートナー団体に引き継ぎ、JIM-NET は活動へのアドバイス提供と資金的な支援を実施しました。

・難民負傷者への医療アクセス支援

ヨルダンの団体 AMR に資金提供し、12 月まで継続しました。

203 人がこのサービスを利用しました。（移送回数は 706 回）

・女性障害者と子どものリハビリテーション支援

イスラム圏の文化的な慣習からリハビリに出かけられない女性や、子どもを対象に、北部のイルビッドにある現地団体の SEMA が運営するセンターの在宅リハの提供を支援しました。4～9 月で終了しましたが、SEMA の財政難を鑑み 1～3 月も資金援助を行いました。延べ 577 人がサービスを受けました。

・負傷者 / 障害者の社会参加支援

イルビッドの女性障害者の活動として、「障害者の権利」を啓発する人形劇を助成しました。5 回の公演を行い、毎回 50 人以上の来場者がありました。



ダラシャ克蘭難民キャンプで就労支援



ヨルダンとシリア難民の障害者たちが人形劇を公演

▶シリア難民支援（シリア国内調査）

連合軍によるラッカの IS からの解放、トルコのアフリン攻撃を受けて緊急救援の可能性を調べるために、シリア国内の調査を実施しました。

▶イラン・イラク地震

2017 年 11 月 12 日にイラクとイランの国境で発生したマグニチュード 7.3 の地震に関して、緊急に 5000 米ドル分の医薬品をダルバンディカンという村に届けました。



地震の被災地

★ハサンさんと移送サービス

ダラア出身で 19 歳のハサンさんは、2011 年、12 歳のときに家の近くで地雷が爆発、その影響で胸から下と左半身にマヒが残った。爆発の際に一緒にいた兄は即死、双子の兄も全身に傷を負っている。

2014 年、15 歳の時に一家は難民としてヨルダンに移動し、その 4 か月後から 2 年間ハサンさんは通院していたが、家の引っ越しをきっかけに医療から遠ざかっていた。そして、今年 5 月にシリア人の運営する無料のリハビリテーションセンターにて JIM-NET の移送サービスと偶然出会い、利用を始めた。

彼は何度もこのサービスに感謝の言葉を述べた。

「このようなサービスがあるなんて、最初は信じられませんでした。無料で遠くの家まで来てくれるなんて。車でおしゃべりするのが楽しい。本当にこのサービスをありがとう。日本の人たちに心から感謝します。障害者がタクシーを断られる苦痛は想像できないでしょう。とてもつらいんです。でもサミールさん（送迎車のドライバー）が来てくれると安心して出かけられます。僕は、身体がよくなって電動車椅子があれば、もっといろいろな自分でできるようになれば家族も楽になりますから、リハビリを続けたいんです。」



福島支援



スー・ヘイゼルダイン氏が作ったサカベコ
「核のない世界よ、永遠に！」

▶福島支援

原発事故から6年が経過し、帰還困難地域が次々と解除されました。政府は、帰還を促進し仮設住宅を終了し、自主避難者の住宅支援を打ち切りました。JIM-NETは福島の人たちの「これから」を応援するために以下の支援を行いました。

1) 支援内容

- ①「大熊ふるさと応援隊」が運営する『避難している大熊町民が、町を訪れ将来を考えるツアー』に10万円を助成
- ②「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」が、児童養護施設の子どもたちを放射能から守るために尿検査やエコー検査を実施。検査費用として9万7200円を助成
- ③本屋フルハウス 50万円
柳美里氏が南相馬の小高に建設した書店内のコミュニティCaféを支援
- ④アースウォーカーズが主催する高校生ドイツスタディツアーに、高校生一名分の旅費25万円を支援
- ⑤アースウォーカーズの福島事業へ765,700円を助成（チョコ募金委託分）
- ⑥チョコで福島を応援 765,700円

福島のNPO法人「ほっと悠」を介し、県内117か所の障害支援施設の利用者3,521名、また福島のサッカークラブ福島ユナイテッドFCの開幕戦で行われた311追悼セレモニーなどで2000個のチョコレートをプレゼントし、福島を元気づけた。

2) アドボカシー

①福島ブックレット実行委員会に参加

海外からゲストを迎え、福島の教訓を海外に伝えるためにはどのような方法や教材がいいのかを検討するワークショップを1月20～31日まで開催、JIM-NETはトルコとヨルダンを担当しました。

②ミランダ・シュラーズ氏の招へい

2018年2月22～28日まで、ドイツが脱原発に舵切をする中心的な役割を果たした元ドイツ倫理委員会のメンバーであるミランダ・シュラーズ氏を招へいし、講演会やスタディツアーを実施しました。立憲民主党が脱原発法案を提出した時期と重なり、国会での勉強会も実施しました。

③サカベコプロジェクト

会津の伝統玩具の赤ベコにサッカーのユニフォームをペイントしたサカベコが世界の平和に貢献することで、福島に元気な話題を提供することを目指します。サッカーの国際試合が行われる度に、対戦国にちなんだ平和をテーマとしてワークショップ展示を行っています。

W杯最終予選の対オーストラリア戦(8.31)では、オーストラリアのウランが福島原発で使われていたことから核の問題をテーマに取り上げました。

・核兵器禁止条約の採択に貢献したオーストラリアの先住民スー・コールマン・ヘイゼルダインさん、サイモン・ジョン・プリドーさんからサカベコにメッセージをいただき、オーストラリアと姉妹都市である大熊町、いわき市で被災された方にもメッセージを書いていただきました。いわき市では、一緒に活動してきた「スカイストア」の閉店前の最後のイベントとして花を添えました。日本はウランをオーストラリアから輸入しています。日豪戦の前後でカタログハウスの直営店「本日福島」に展示させていただくことができました。

・会津若松の荒井工芸所から技術指導を受け、イラクのシリア難民と商品開発を開始しました。



ドイツスタディツアーに参加した
福島の高校生



大熊町を視察する
ミランダ・シュラーズさん



カタログハウス東京様にてサカベコ展示



広報・イベント・チョコ募金

▶ 広報・イベント

・JIM-NET 便りを年間 4 回発行しました。◆JIM-NET 便り印刷発送協力 社会福祉法人東京コロニー トーコロ青葉ワークセンター

2017 年度 主なイベント

サッカーで支援！

サッカーほど世界中で親しまれているスポーツはほかにありません。JIM-NET は、イラクや福島のサッカークラブとともに社会貢献を行っています。

- ・「サッカーでイラク・シリアの平和を考える (6 月 3 日)」ゲスト：屋良充紀さん (元シリア A 代表チームコーチ)
- ・成城大学ワークショップ「サッカーとグローバル関係学」(10 月 15 日)



屋良充紀さん

アートで発信！

JIM-NET が支援している子どもたちは、厳しい環境にありながらも絵を描くことが大好きです。子どもたちの「生き生き」とした作品をアートとして皆様にお届けします。

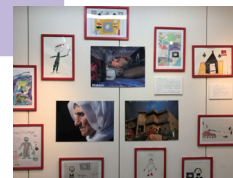
- ・イラクとシリアの Happy なアート展 (11 月 1 日～30 日) @新宿 BERGE
- ・IRAQ15 展 (2 月 9 日～14 日) @ギャラリー日比谷
- ・ART とチョコ展 (2 月 17 日～28 日) @名古屋・高山額縁店

お年寄りも HAPPY!

11 月 22 日、チョコ募金キックオフイベント「HAPPY チョコレート」を開催しました。ゲストにお迎えした演歌歌手・神野美伽さんは、15 歳で亡くなったサブリンが遺した絵を友禅着物に仕立てて熱唱くださいました。



神野美伽さん



IRAQ15 展

現場の「今」を伝えます！

現場の様子を写真、映画、トーク等で多角的にお伝えします。

- ・シリア NOW! (8 月 4 日) ゲスト：青山弘之さん (東京外国語大学教授)
- ・モスル NOW! (9 月 2 日) ゲスト：安田菜津紀さん (フォトジャーナリスト)、鈴木雄介さん (ドキュメンタリー写真家)、伊藤めぐみさん (ドキュメンタリー・ディレクター)
- ・シリア NOW! Vol.2 (12 月 9 日) ゲスト：春日芳晃さん (朝日新聞社国際報道部デスク)、青山弘之さん、鈴木雄介さん

▶ チョコ募金

1 口 550 円のご寄付をくださった方に、チョコレートをお贈りしている JIM-NET の活動を支える募金キャンペーンです。今回は小児がんを克服した 20 歳の SUSU (スース) が闘病中に描いた絵を使い、がんの子どもたちが Happy になれるようにデザインしました。デザインに起用されたことで、引きこもっていた SUSU が院内学級で働きたいと言ってくれ、JIM-NET が 2018 年度に目指す心理社会的アプローチを考えるきっかけとなりました。

今回は例年よりも実施期間が延長し、3 月末に「春の特別キャンペーン」を企画しました。当初はどうか 16 万個を終わらせるために考えたものでしたが、多くの方から応援の言葉をいただき、また福島の子が障がい者施設とのつながりもでき、結果的に様々な効果がありました。ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

- ①テーマ：「みんなが Happy になれるチョコレート」
- ②募金個数：六花亭様の協力により前回と同じ 16 万個
- ③実施期間：2017 年 11 月 15 日～2018 年 4 月 10 日

◆チョコ募金運営協力 (敬称略)

六花亭製菓株式会社／古茂田工業株式会社／有限会社山猫印刷所／社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 KFJ 多摩はなみずき／協同組合 JASMEQ／柳原出版株式会社



311 未来へのつどい ピースオンアース

イラク支援

- 1) イラク国内 4 か所 5 病院へ医薬品支援を継続
- 2) トレーニング
 - ①ソーシャルワーカーのトレーニングをスレイマニアの HIWA 病院で実施
 - ②アルビルにおける看護師研修の評価とフォローアップを充実させる
 - ③イラク全土から各病院看護師 2 名づつを招いてエジプトで研修を行う。
- 3) 小児がん包括支援施設 (JIM-NET ハウス)
 - ①アルビルのナナカリ病院の敷地内に新しく包括支援施設を建設し、年度内の竣工を目指す。
 - ②心理社会的な支援に関して 15 歳—20 歳程度に対象を広め、学業や、結婚、就職などの相談に応じられるように、ソーシャルワーカー、ボランティアの育成を行っていく。
- 4) 貧困患者支援を継続
- 5) 最先端技術
CAR-T 細胞移植技術に関して引き続き調査を行う。
- 6) ヨルダンにおけるがん支援
モスルの小児がんの患者でがんのタイプの診断がつかないケースはヨルダンのキングフセインがんセンターに依頼する。

緊急支援

- ①シリア難民支援
 - ・イラクのダラシャクラン難民キャンプで母子支援を継続する。
 - ・ヨルダンでは、負傷者・障害者支援のフォローアップを行う
- ②シリア国内での活動の可能性を検討する。

福島支援

- 活動指針を、1) 福島の将来は福島の人たちが決める
2) 東京の責任を果たす 3) 世界に向けた発信として、以下の活動を実施する。
- ①地元の団体が実施する「保養」「見える化」「検診」の事業を支援する。
 - ②東京（中央）の責任と地の利を生かした政府へのアドボカシーに参加、連帯する。
 - ③福島の教訓を世界に発信：「福島 10 の教訓」のアラビア語版を用いたワークショップを現在原子炉を建設中の湾岸諸国で実施できないかを検討する。
 - ④全体を通して、福島を元気にする活動になるように心がける。

アドボカシー

- ①福島の教訓に絡めた政策提言をしていく。
- ②武力を用いない平和に向けたアドボカシーとして引き続き NGO 非戦ネット、イラク戦争の検証を求めるネットワーク、シリア和平ネットワークに協力する。
- ③「持続可能な開発目標 (SDGs)」、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC)」に関する政策提言を行う。
- ④がん患者の偏見や差別に反対するキャンペーンを行う。

広報・イベント

- 1) 広報
海外からアルビル事務所のスタッフであるリーム・アッバスを招聘し、講演やラジオ出演、インタビューを通し、現地の様子を発信し支援を広く募る。
WEB コンテンツを充実させ、JIM-NET 独自の写真や動画なども含め、親しみやすい発信を続けていく。
- 2) イベント
幅広い年代層からの支援を得るために、サッカーなどのスポーツ、イラク現地のタイムリーな情勢、支援している子どもたちによるアート作品、食文化等、多角的なイベントを通して中東を身近に感じられる企画を実施する。

チョコ募金

- 1) テーマ
『たんぽぽー花は枯れても種は世界に広がり、命がつながる』
モスルのイブンシアール病院でがれきの中で唯一咲いていたたんぽぽを、子どもたちに描いてもらった。
今年度はがんの子どもへの支援と、日本国内でがんの啓蒙活動を行っている団体と連携し、啓蒙活動にも力を入れていく。
- 2) 実施時期と個数
個数を 15 万個として、11 月中頃から受付を開始し、寄付を募る。



2017年度決算

※活動計算書

● 2017年4月1日～2018年3月31日

Ⅰ．経常収益 (単位：円)	
科目	決算額
受取会費	(正会員受取会費)
	70,000
	(賛助会員受取会費)
	10,000
	(サポーター受取会費)
	9,096,000
	合計
	9,176,000
受取寄附金	(受取寄付金)
	48,318,311
	(チョコ募金)
	76,417,741
	合計
	124,736,052
受取助成金等	(受取補助金)
	0
	(受取助成金)
	3,022,222
	合計
	3,022,222
事業収益	0
その他収益	(雑収入)
	2,009,052
	(受取利息)
	18,802
	合計
	2,027,854
経常収益計	138,962,128

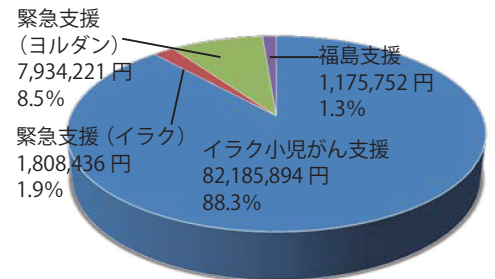
Ⅱ．経常費用／Ⅲ．経常外収益／Ⅳ．経常外費用 (単位：円)	
科目	決算額
事業費	人件費 (給与手当、通勤費他)
	19,243,366
	プロジェクト物資費
	55,090,485
	ワークショップ等開催費
	1,035,189
その他経費	日本NGO連携無償資金協力事業費
	14,699,444
	寄付金原価 (チョコ製造費他)
	21,980,602
	その他費用 (水道光熱費、通信費他)
	23,118,531
事業費計	135,167,617
管理費	人件費 (給与手当、通勤費他)
	9,379,269
	その他経費 (事務所家賃他)
	5,709,503
管理費計	15,088,772
経常費用計	150,256,389
経常外収益計	1,035,923
経常外費用計	309,201
当期正味財産増減額	△10,567,539

※貸借対照表

● 2018年3月31日現在

資産の部 (単位：円)		負債の部 (単位：円)	
科目	金額	科目	金額
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	243,041,937	未払金	2,653,298
未収入金	43,996	未払費用	1,125,994
貯蔵品	407,695	前受金	74,804,079
前渡金	963,879	預り金	327,986
前払費用	452,364	流動負債合計	78,911,357
仮払金	632,128	2. 固定負債	0
流動資産合計	245,541,999	負債合計	78,911,357
2. 固定資産		正味財産の部 (単位：円)	
什器備品	289,318	科目	金額
敷金	676,800	福島基金	7,229,531
固定資産合計	966,118	緊急時対応準備金	8,000,000
資産合計	246,508,117	前期繰越正味財産残額	162,934,768
		当期正味財産増減額	△10,567,539
		正味財産合計	167,596,760
		負債及び正味財産合計	246,508,117

各支援事業の費用の割合 (経常費用)



※監査報告書

監査報告書 INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT	
特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET) の2017年度決算 (2017年4月1日～2018年3月31日) について、監査の結果、事業は適正に実施され、また活動計算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。	
We have audited the financial statement of NPO JIM-NET as of March 2018 and acknowledged that revenue and expenditures for the Fiscal Year 2017 in the activity statement and balance sheet were based on generally accepted accounting principles.	
日付:	2018年5月24日
監事:	村山文彦

2018年度予算

※活動予算書

● 2018年4月1日～2019年3月31日

Ⅰ．経常収益 (単位：円)	
科目	予算額
受取会費	(正会員受取会費)
	70,000
	(賛助会員受取会費)
	10,000
	(サポーター受取会費)
	8,600,000
	合計
	8,680,000
受取寄附金	(受取寄付金)
	20,450,000
	(チョコ募金)
	87,050,000
	合計
	107,500,000
受取助成金等	(受取補助金)
	3,200,000
	(受取助成金)
	57,826,026
	合計
	61,026,026
その他収益	合計
	12,100,000
経常収益計	189,306,026

Ⅱ．経常費用 (単位：円)	
科目	予算額
事業費	人件費 (給与手当、通勤費他)
	17,774,400
	プロジェクト物資費
	49,985,840
	ワークショップ等開催費
	5,651,600
その他経費	日本NGO連携無償資金協力事業費
	57,826,026
	寄付金原価 (チョコ製造費他)
	22,395,000
	その他費用 (水道光熱費、通信費他)
	21,448,160
事業費計	175,081,026
管理費	人件費 (給与手当、通勤費他)
	9,595,000
	その他経費 (事務所家賃他)
	4,630,000
管理費計	14,225,000
経常費用計	189,306,026
経常収支差額	0

※ JIM-NET 参加団体 (50 音順)

【アラブの子どもとなかよくする会】

1991 年の湾岸戦争後からアラブ地域、とくにイラクの子どもたちへの支援活動を開始、1993 年に会を設立。
がんの子どもたちへの医療支援のほか、クラフト作り（アフーク・プロジェクト）を通じて患者家族の生活支援を行っています。

【カタログハウス基金】

カタログ雑誌「通販生活」では、信頼できる暮らしの道具を厳選して販売するとともに、戦争や災害に苦しむ子どもたちの救援活動に取り組んでいます。

【子どもの平和と生存のための童話館基金】

童話館グループは、長崎市にある絵本・子どもの本を専門にあつかう会社です。2001 年、童話館の創業 20 周年記念として、「子どもの平和と生存のための童話館基金」が設立されました。

【「サダコ」・虹基金】

原爆の子の像のモデル佐々木禎子さんと同じ病院で過ごした故・大倉記代さんが、絵本『想い出のサダコ』出版をきっかけに 2006 年 3 月に設立した基金です。

【スマイルこどもクリニック】

小児救急施設の不足が深刻な社会問題となる中、2001 年に開院された 24 時間診療の小児クリニックです。イラク難民キャンプでの健康診断、子どもたちの手術費の負担など様々な支援を行ってきました。

【日本国際ボランティアセンター (JVC)】

1980 年、カンボジアやラオス、ベトナムでたくさんの難民が生まれた時、タイの難民キャンプに駆けつけた日本の若者たちにより誕生しました。現在、アジア、アフリカ、中東、そして日本の震災被災地で活動しています。

【日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF)】

1991 年 1 月、チェルノブイリ原子力発電所事故被災者への医療支援を目的として設立された認定 NPO 法人です。2004 年からはイラクの小児白血病・小児がんの子どもたちへの支援を行なっています。

※ 補助金・助成金・表彰・ファンドレイジングサービス・ご寄付・チョコ募金ご協力者様 (50 音順・敬称略)

◆補助金

外務省 日本 NGO 連携無償資金協力

◆助成金

生活協同組合パルシステム東京 平和カンパ／特定非営利活動法人 アーユス仏教国際協力ネットワーク／日本労働組合総連合会 愛の
カンパ／日蓮宗宗務院 あんのん基金／庭野平和財団公募助成金

◆表彰

公益財団法人 社会貢献支援財団

◆ファンドレイジングサービス

gooddo 株式会社／ソフトバンク株式会社（かざして募金）／TM コミュニケーションサービス株式会社（お宝エイド）

◆大口のご寄付・ご協力いただいた企業・団体の皆様：ご寄付 1517 件（1016 名）

カタログハウス基金／子どもの平和と生存のための童話館基金／草工房パロール／全国友の会／有限会社エリコ通信社／有限会社
SATOWA MUSIC／特定非営利活動法人 WE21 ジャパン青葉／特定非営利活動法人 WE21 ジャパン港南／認定 NPO 法人 WE21 ジャ
パン旭／認定 NPO 法人 WE21 ジャパンよこすか ほか

◆大口のご寄付・ご協力いただいた企業・団体の皆様：チョコ募金 11641 件（11084 名）

アルソア本社株式会社／特定非営利活動法人 WE21 ジャパン協力店舗／生活協同組合パルシステム／自然派くらぶ生活協同組合／大王製
紙株式会社／ピア&カフェ BERG／さっぽろイラクチョコ募金の会／旭川イラクチョコ募金の会／カタログハウスの店・大阪／カタログ
ハウスの店・東京／認定 NPO 法人アースウォーカーズ／地球音楽工房（やぎりんオフィス）／テサテブ株式会社 ほか



2017 年度年次報告書



2018 年 7 月 26 日発行

特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-11 内藤ビル 2C

電話：03-6228-0746 E-mail：info-jim@jim-net.net

寄付金振込先：郵便振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット

ゆうちょ銀行 金融機関コード 9900 店番 059

預金種目 当座 店名 ○五九店（○は漢数字のゼロ）口座番号 0094945

<http://jim-net.org/>

【表紙の絵】

描いてくれたのは、バスラのスース・ア
ブドルザハラさん（20 歳）。JIM-NET の
支援で抗がん剤の治療が終わり、現在は
元気に暮らしています。2018 チョコ募金
の缶の柄には、アブドルザハラさんの絵
を起用しました。